

home.

Shizuoka Saiseikai Communication Paper

August, 2026

Vol.57



特集 済生会〈認知症ケアチーム〉座談会

「入院患者さんを支える認知症ケア」～認知症ケアチームの役割と活動～

3. 市民公開講座のご案内
4. 家族が知りたい認知症予防 FAQ
5. 第27回済生会フェアを開催しました
6. 白萩病院との連携協定を基盤に、地域の救急医療体制を強化／9月は認知症月間
7. 当院からのお知らせ



Round-Table SAISEI TALK



「入院患者さんを支える認知症ケア」

～認知症ケアチームの役割と活動～

病気やけがによる入院をきっかけに、認知症の症状が悪化したり、認知症のような症状が現れたりすることがあります。

当院では、こうした変化を防ぎ、患者さんが安心して入院生活を送り、退院後の生活へつなげられるよう、

「認知症ケアチーム」が活動しています。

そもそも
「認知症」
とは...



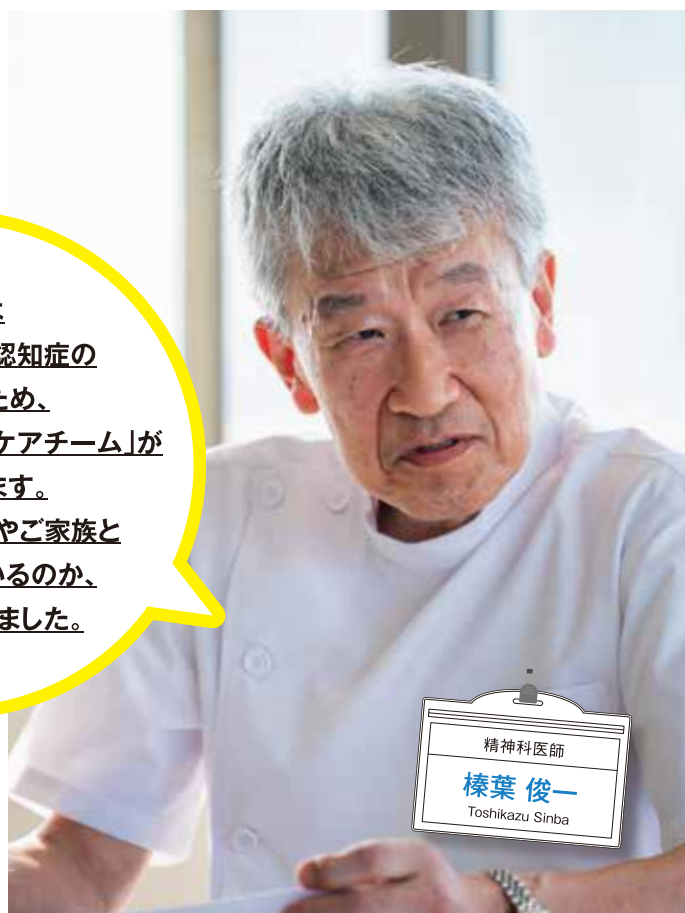
認知症と加齢変化の 違いは？

認知症は、さまざまな原因によって脳の働きが低下し、これまでできていたことが難しくなり、日常生活に支障をきたす病気です。診断には、日常生活の様子に加え、認知機能検査やCT・MRIなどの画像検査を組み合わせで行います。感覚、記憶、理解、判断、行動などの機能は加齢によっても低下しますが、認知症では通常に加齢変化を超えた認知機能の低下がみられる点が特徴です。

入院が症状悪化の きっかけになることも

認知症には、記憶障害や判断力の低下などの「中核症状」と、不安や興奮、昼夜逆転などの「行動・心理症状」があります。特に行動・心理症状は、入院による環境や体調の変化をきっかけに短期間で強まることがあり、退院後も十分に回復せず、認知症の進行につながる場合があります。そのため、入院中から適切なケアを行うことが大切です。

当院では
入院患者さんの認知症の
悪化を防ぐため、
多職種による「認知症ケアチーム」が
活動しています。
チームが患者さんやご家族と
どう向き合っているのか、
メンバーに聞きました。



精神科医師
榛葉 俊一
Toshikazu Sinba



医療ソーシャルワーカー
澤口 万起子
Makiko Sawaguchi

家族が驚く、入院患者さんの「せん妄」

—高齢の方が入院すると、心身にどんな影響がありますか？

榛葉: 認知症の方も、認知症でない方も、高齢の方が入院すると、病気や手術、入院という環境変化の影響などにより、入院後に混乱してしまうことがあります。少しぼーっとした状態で怒ったり、起きているのに夢を見ているような様子が見られたり、ここがどこで今何をしているのか分からなくなり、点滴の管を抜き「家に帰る」と言い張ったり、入院前とは別人のようになることもあります。これを「せん妄」と言います。

赤堀: せん妄には低活動性と過活動性があって、全然食べなくなってしまう方もいれば、眠らない、暴れる、服を脱ぐ、治療の装置を外すという興奮状態になる方もいます。ご家族がその様子にショックを受けて「入院したら認知症になった」と誤解することもあります。

榛葉: 入院してすぐにせん妄になる方もいれば、少し経ってから起きることもありますね。

赤堀: 多くは一時的なもので、入院の原因となった病気が良くなれば改善していきます。ただ、せん妄の期間が長くなるほど認知機能が衰え、認知症になるリスクが高まりますので、せん妄予防や早期回復が重要です。入院前から認知症の症状がある方はなおさら対策が必要です。私たち認知症ケアチームはそうした入院患者さんの認知症を防ぐために2024年6月から活動を始めました。ここにいるメンバーに加えて管理栄養士と薬剤師がチームを組み、病棟の看護師と連携してケアしています。

生活リズムを整え、日常に近づけていく

—具体的にはどんな対策をしているのでしょうか？

赤堀: 当院では入院される患者さんに認知機能に関する聞き取り調査を行い、リスクの高い方を早い段階からチームと病棟が協力してケアする体制を整えています。まず原因疾患の治療が計画通り安全にできるよう、患者さんご本人やご家族などと話し、その方に合った個別ケアを探っていきます。精神的なサポートが大事ですから、患者さんの人となりを知ることが欠かせません。

榛葉: 入院して体が思うように動かせなくなると、それが脳にも影響してきます。体を動かすことで脳が刺激されるので、低下した体の機能を早期から動かしていくのがリハビリの役割ですね。

中川: 患者さんはベッドにいる時間が長いほど身体機能・精神機能共に衰えてしまいますので、私たち作業療法士はその方がなぜ動けないのか理由を探していきます。現疾患の治療状況を踏まえ血液検査やレントゲンなどの情報も考慮していきます。また、管理栄養士と相談して、どうしたら食事が取れ栄養が確保できるのか、主治医の先生に相談して薬の種類や服薬時間・量を調整して活動の時間を確保することもあります。生活のリズムを整え、現疾患・認知症など患者さんご本人の状態に合わせながら、なるべく早期から介入し入院前の生活に近づくようにしていきます。

榛葉: 食事は非常に重要で、飲み込む機能が衰えると誤嚥性肺炎のリスクが高まりますね。そうした誤嚥対策を、杉山さんたち言語聴覚士が行っています。



認知症看護特定認定看護師
赤堀 照美
Terumi Akahori



作業療法士
中川 貴博
Takahiro Nakagawa



言語聴覚士
杉山 穂子
Toshiko Sugiyama

杉山: 病気やけがの症状として飲み込むことが難しくなったり、手術の前後や食欲が無くて食べていない期間があると口や咽(のど)の力が弱くなってしまいます。しかし、できる限り口から食べ続けていくことを目指し、どんなものなら安全に食べられるか評価を行います。また、管理栄養士さんと相談して、安全に食べられそうな物のなかで患者さんの好みや希望をできるだけ叶えられるようにしています。少しでも食べることで栄養がつけば運動する力も出てきますね。

中川: 食べられるようになれば栄養状態も改善し、運動の効果も高まります。良いサイクルができます。離床時間も増え、リハビリを行いながら様々な症状に対応できますし、身の回りのできることも少しずつ増えていきます。そうすると私たちもうれしいです。

赤堀: まず「食べること」が「起きること」につながりますね。

退院に向けた準備は入院時から

榎葉: 認知症の進行を防ぐにはなるべく早期に退院して外の社会に戻ることが大事です。退院後、できる限り元の日常を取り戻すために相談員(医療ソーシャルワーカー)が活動しています。

赤堀: 入院したその時から退院のことは考えていますよね。

澤口: 病院とその方の生活をつなぐことが私たち相談員の役目です。既に介護保険サービスをご利用の患者さんに向けては、入院中のご様子の他、ケアやリハビリの内容など、病院での支援が退院後も継続できるよう、ケアマネジャーさんに情報を提供して不足のないサービスの調整を依頼しています。退院後直ぐにサービスの利用が必要な患者さんには介護保険の申請をお勧めし、ケアマネジャーを紹介いただける『地域包括支援センター』をご案内することも多くあります。また、心身機能の低下が著しく自宅に退院することが難しい患者さんには最適な施設や病院をご案内する等、退院後の生活基盤を整えていきます。

中川: リハビリでは、退院が近づくと、その方の状態に合わせ、安全に身の回りの動作が行えるように、移動する・食事をとる・服を着る・トイレ動作など、より具体的な練習をしています。また、ご家族へ介助方法の指導やサービスの提案、福祉機器の選定や、手

すり設置などの住環境整備を行い、安全に生活ができるようにしていきます。

赤堀: 退院後は、入院生活で低下した心身の機能を回復すること、安心して暮らせる環境を再構築することが必要。そしてご家族もサポートを頑張りすぎないことが、ケアを継続する最大の秘訣です。



入院患者さんで車いすに座れる方など状態が安定している方を対象に、病棟の一角でデイサービスを開設しています。一般のデイサービス施設のように、レクリエーションを通じて患者さんの機能回復を支えます。また病棟看護師や担当医師が患者さんの状態を見極める場ともなっています。

回復を進める、多職種のつながり

—認知症ケアチームは実際どのように連携していますか？

赤堀: 認知機能の低下がみられる患者さんは途切れることなく入院されています。そこで認知症ケアの専門職を中心に多職種が集まって一人ひとりの患者さんについて週1回協議し、その内容を踏まえて病棟の看護師とカンファレンスを行っています。病棟で困っていることなどもチームで共有しています。当院スタッフは横のつながりが強く、意見も活発に交わして患者さんを支えています。

中川: 例えば、リハビリで杖で歩く・トイレができるようになると病棟でも実践していきます。その際、病棟の看護師に方法や注意点・リスク等を説明して情報共有を行いながら、退院に向けて「できること」を増やしていきます。その方の状態を知り、その方に合った方法や接し方で多職種が同じ目標に向かって進んでいきます。

赤堀: 病院は治療の場であるとともに、生活の場でもあります。認知症があってもなくても一人の人間としての尊厳が守られ、安心して治療を受けられる場です。私たちはご本人が一日も早く住み慣れた場所や穏やかな日常に戻れるようにサポートしていきます。

市民公開講座のご案内

定員80名

参加費無料

テーマ 済生会入院病棟における認知症ケア

高齢の患者さんやそのご家族に知っておいていただきたい認知症予防対策を、認知症ケアチームのメンバーが解説します。

日時 9月26日(土) 14:00~16:00

申し込み開始 8月12日(水) 9:00~

会場 静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ1001-2 会議室(静岡市駿河区東静岡2丁目3-1)

お問合せ TEL.080-8664-4221 (担当:企画・広報課/平日9:00~17:00)

WEB
申し込みは
コチラ!



FAQ

家族が知りたい 認知症予防

Frequently Asked Questions

Q 高齢の家族が入院することに。 認知症でなくても ケアしてもらえますか？

認知症という診断がなくてもサポートの対象になる場合があります。病名だけで判断せず、入院生活で混乱が起きそうな方、手助けが必要な方を入院した時点で見つけ、支えていきます。

Q 一度落ちた認知機能が 改善する見込みは ありますか？

認知症の症状は、生活環境や心の状態に影響を受けます。神経細胞の障害そのものが回復するのは難しくても、まだ残っている神経細胞同士がつながりを強めることで改善することは期待できます。

Q 家族が本人と接する上で 大切なことは何でしょうか？

大切なのは、ご本人の病態を知ることです。できること、できないこと、なぜできないのか、どんな対応が必要なのか。それによって、声かけや介助の方法も変わります。ご本人の病態や想いを聞いたり感じたりと理解していく事がとても大切です。しかし、ご家族だけでは難しい事もあります。その時は私たちに相談ください。

Q 入院した父に異変が。 家族はどう対応したら いいですか？

入院して、着替えを拒む、何度も同じことを聞くなど、認知機能の低下によって言動に異変が出ると、ご家族はそれを本人の意思だと思って怒ったり不安を感じたりします。逆に、「何もできなくなった」と思い込んだご家族が先回りして何でもやってしまうことで、ご本人が「自分はまだできるのに」とふさぎ込み、ますます認知症が進んだと誤解されることもあります。まず認知機能が低下するとどうなるのか理解することが大切です。

Q 病気で体を動かすのが辛い... 体を動かすことに、 どんな効果がありますか？

身体機能の維持や向上、自分でできる事を維持したり新たに増えることもあります。精神面にも良い影響が出る事もあります。また、体を動かす事により出てきた症状に対しても、早期から対応できます。リハビリスタッフが病状や安静度に基づいてプログラムを組んでいますので、安心して体を動かしてください。

Q 退院後の食生活を どうサポートしたら いいですか？

退院後の食事をイメージするためにも、ご家族が入院中に食事の様子を見に来ていただき、今の状態を把握することをおすすめします。どんなことがリスクになるのか、入院前とどう変わったのかを知っていただけると、退院後も安全な食生活を長く続けることができると思います。

第27回済生会フェアを開催しました



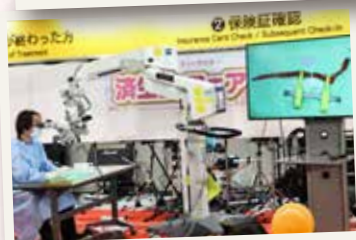
ひまわり事業団のみなさん



縫合体験



放射線技術科



手術のデモンストレーション



ご協力いただいたみなさん



ふとんはどうやって作るでSHOW!



白衣でポーズ



院内バンドドクターチルドレン



手術室ツアー



和太鼓演奏



健康診断・体力テスト



プラバンでキーホルダーを作ろう

6月6日(土)、当院にて「～医療の魅力を伝えたい～ インクルーシブ社会の実現のための地域をつなぐ医療と福祉」をテーマに、第27回済生会フェアを開催しました。

当日は、子どもから高齢者まで幅広い世代の皆さま約2,000名にご来場いただき、会場は終日多くの笑顔とにぎわいに包まれました。

今年も多くの企業・団体の皆さまにご協力いただき、約60の体験ブースやステージパフォーマンス、抽選会など、健康・医療・福祉を楽しみながら学べるさまざまな企画を実施しました。

今年度は医療体験ブースをさらに充実させ、人気企画である手術室ツアーを7年振りに再開したほか、ステージでは整形外科医による微小血管吻合のデモンストレーションを実施しました。また、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の展示や縫合体験にも多くの方が参加され、医療をより身近に感じていただく機会となりました。

ご来場いただいた皆さま、ご協力いただいた企業・団体の皆さまをはじめ、開催にご尽力いただいたすべての関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。今後も地域の皆さまとのつながりを大切にしながら、医療や福祉への理解を深めていただけるよう取り組みを続けてまいります。

地域の
皆さまへ

白萩病院との連携協定を基盤に、 地域の救急医療体制を強化

当院では、医療法人社団秀慈会 白萩病院との救急患者搬送に関する連携協定に基づき、地域の救急医療体制の充実に取り組んでいます。

この協定は、高齢化に伴い増加する救急搬送に対応するため、当院で初期診療を行った後、白萩病院での治療が適切と判断された患者さんを、迅速かつ円滑に転院搬送する体制を整えることを目的としています。

両病院がそれぞれの役割を担いながら連携することで、当院では重症患者の受け入れ体制の維持につながるほか、患者さんにとっても急性期治療後の転院や在宅復帰への支援がよりスムーズになります。

今後も地域の医療機関との連携を深め、地域の皆さまが安心して医療を受けられる体制づくりに努めてまいります。



地域の
皆さまへ

「9月は認知症月間」

認知症サポーター養成講座を **無料** 開催します

認知症は、誰にでも起こりうる身近な病気です。認知症になっても、周囲の理解や気遣いがあれば、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができます。

認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、認知症の方やそのご家族を温かく見守り、応援する人です。特別な資格や専門的な活動が求められるものではなく、日常の中での声かけや見守りなど、一人ひとりのできることが大きな支えとなります。

本講座では、認知症の正しい知識や接し方について分かりやすく学びます。

講座を受講された方は、認知症サポーターとして認定されます。

日 時 **9/18(金)** (10:00~11:00) 会 場 静岡済生会総合病院 北館地階 講堂

定 員 **10名** 対 象 者 どなたでもご参加可能 参 加 費 無料

お申込み 右のQRコードからお申込みください。

お問合せ **TEL.054-285-6171** (代表) 認定看護師室 赤堀 (平日 9:00~17:00)

お申込みは
コチラから



INFORMATION



就労支援相談会(毎月第3金曜日)のご案内

当院では治療と仕事の両立を支援する「就労支援相談会」を毎月開催しています。相談会にはハローワークの担当者が病院に出張し、専門的な立場からお一人おひとりの状況に合わせたアドバイスや就職活動のサポートを行います。

日 時 9/18(金).10/16(金).11/20(金).12/18(金) (各日13:00~16:00)

会 場 静岡済生会総合病院 西館2階面談室(がんトータルケアセンター内)

お問合せ TEL.054-280-5038(直通) 地域医療センター 医療相談室(平日 9:00~17:00)

● 個人情報は厳守いたします。● 当日ご相談も可能(予約優先)

がんサロンのご案内

事前申込み不要 参加無料

当院では、がん患者さんとそのご家族の交流や情報交換、相談の場としてがんサロンを開催しています。当院に通院されていない患者さんも参加可能です。お気軽に足をお運びください。

日 時 9/17(木).11/19(木) (各日14:00~15:30)

会 場 静岡済生会総合病院 南館1階休憩コーナー(旧カフェ「ハニー・ビー」)

お問合せ TEL.054-280-5038(直通) 地域医療センター 医療相談室(平日 9:00~17:00)

高校生と病院がコラボ!疲労回復講座を開催

7月16日、市民公開講座「疲労を捨てちゃいまSHOW」を開催し、約30名が参加しました。本講座は、2025年の済生会フェアをきっかけに交流が始まった、静岡商業高校ビジネス探究部との連携企画です。高校生は、お茶や睡眠、脳の休め方など、日頃の探究活動の成果を分かりやすく発表。当院リハビリテーション科の理学療法士も、肩こり改善につながる運動や姿勢について紹介しました。参加者アンケートでは、「高校生がとてもよく研究していて分かりやすかった」「高校生に元気をもらった」「肩こり対策を早速実践してみたい」などの声が寄せられ、世代を超えた学びの機会となりました。

当院では今後も、地域の皆さまの健康づくりにつながる講座を開催してまいります。



読者アンケート

日頃は「home」をご愛読いただきありがとうございます。「home」のより良い紙面づくりのため、読者アンケートを実施しております。「こんな記事が読みたい」、「病院のこんなことが知りたい」など率直なご意見をお寄せください。

アンケートにご回答いただいた内容は今後の紙面づくりに反映いたします。

「home」
読者
アンケート



私達はあたたかい思いやりの心で質の良い医療・福祉サービスを実践します

社会福祉法人 済生会
静岡済生会総合病院
Shizuoka Saiseikai General Hospital

〒422-8527
静岡県静岡市駿河区小鹿一丁目1番1号
TEL.054-285-6171 FAX.054-285-5179



<https://shizuoka-saiseikai.jp/>

静岡済生会総合病院 LINE公式アカウント & インスタグラム



公式LINE



SHIZUOKA SAISEIKAI GENERAL HOSPITAL

地域周産期
母子医療
センター

